平成 27 年度第 7 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 10 月 19 日 (月) 17:30 ~ 19:38

【場 所】 厚田保健センター 1 階 多目的ホール

【出席者】 12 名 (15 人中)

役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子	○	委員	中井 健太	○
副会長	渡邊 教円	○	委員	今 光 江		委員	平賀 敏和	○
委員	大内 さつき	○	委員	坂本 悌生	○	委員	前田 和也	
委員	大黒 利勝	○	委員	柴田 志寿子		委員	築田 敏彦	○
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇	○	委員	吉田 美香	○

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ~ 田岡市長、企画経済部渉外調整担当 松田部長、企画課 本間課長、上窪主幹
企画経済部渉外調整担当 稲垣主査

支 所 ~ 西田支所長

事務局 ~ 高田課長・相原主幹・渡部主査・永澤主任・寺内主任
(地域振興課)

地域おこし協力隊 ~ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 0名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 委嘱状交付並びに委員紹介
 3. 市長あいさつ
 4. 職員紹介
 5. 協議事項
 - (1) 会長・副会長選任<休憩>
 - (2) 石狩市過疎地域自立促進市町村計画について
 6. 報告事項
 - (1) 「道の駅」の整備に関するパブリックコメントの実施について
 7. その他
 - ・次回協議会の日程について
 8. 閉会

1. 開会

【厚）地域振興課 高田課長】

皆さんどうもお疲れ様です。第6期最初の地域協議会開催にあたり、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。これより次第に沿って会議を進めて参りたいと思いますが、会長及び副会長が選任されるまでの間、私、地域振興課長の高田が進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。開会の前に、今日どうしても出席出来ないという事で、前田委員、今委員、柴田志寿子委員の3名より連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。

それでは、ただ今より平成27年度第7回厚田区地域協議会を開会致します。

2. 委嘱状交付並びに委員紹介

【厚）地域振興課 高田課長】

委嘱状につきましては、時間の関係で交付行為を省略させていただきまして、事前に皆さんの席上へ配置しております事をご了承いただき、ここで委員の紹介と経歴等について、簡単にご紹介致します。また、お手元には委員名簿があると思いますので、順に紹介をさせていただきます。

それでは公共的団体から推薦をされました、第1号委員をご紹介します。

★ おがさわら えいし 小笠原 英史 様

小笠原委員は、北石狩農業協同組合から推薦をいただいております。

現在、発足地区で農業に従事されており、北石狩農業協同組合理事を務めると共に、厚田小学校PTA副会長として学校教育支援に貢献し、更には、厚田こだわり隊に所属し地域活動にもご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に引き続き2期目となります。よろしく申し上げます。

★ しばた しずこ 柴田 志寿子 様

本日欠席となっておりますが、柴田委員も、同じく北石狩農業協同組合から推薦をいただいております。北石狩農業協同組合女性部厚田ブロック長を務めると共に女性部加工グループにも所属され、しそジュース・トマトジュースなどの特産品開発・販売などの活動にご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に引き続き2期目となります。よろしく申し上げます。

★ よしだ みか 吉田 美香 様

吉田委員は、石狩湾漁業協同組合から推薦をいただいております。

同組合厚田地区の女性副部長として厚田の漁業発展の為取り組み、また、子ども会やスポーツ少年団での活動支援など青少年の健全育成にも積極的に参画されております。

委員歴につきましては、前期に引き続き2期目となります。よろしく申し上げます。

★ こやま れいこ 小山 玲子 様

小山委員は、石狩北商工会から推薦をいただいております。

同会の女性部部长を務め、厚田の商工業活性化に向けた取り組み、更には、厚田こだわり隊にも所属し、特産品の販売においては、直売所を切りまわす販売班の班長として、ご活躍いただくなど、地域活動にご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に引き続き2期目となります。よろしく申し上げます。

★ まえだ かずや 前田 和也 様

本日欠席となっておりますが、前田委員は、社会福祉法人はるにれの里から推薦をいただいております。

現在は同法人レラ・もうらいに勤務され、施設運営の先頭に立ち活躍されており、また厚田の特産品として、すでに市場に出回っております、しいたけ栽培の開発時においては、先頭に立ち取り組まれるなど、常

に一線でご活躍・ご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に続き3期目となります。よろしくお願いいたします。

★ わたなべ のりまる
渡邊 教円 様

渡邊委員は、厚田区自治連合会から推薦をいただいております。特別養護老人ホーム厚田みよし園の施設長として、社会福祉の推進に向けご活躍され、また、厚田中学校PTA会長として学校教育支援に貢献・ご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に続き3期目となります。よろしくお願いいたします。

★ ひらが としかず
平賀 敏和 様

平賀委員も、同じく厚田区自治連合会から推薦をいただいております。厚田燻製の製造・販売に携わる他、かつては青年海外協力隊としてガーナ国へ赴いた経験をお持ちです。

また、厚田こだわり隊に所属されており、集荷や販売など地域活動にもご尽力されております。

委員歴につきましては、今回が1期目となります。よろしくお願いいたします。

★ こん みつえ
今 光江 様

今委員も、同じく厚田区自治連合会から推薦をいただいております。

石狩湾漁業協同組合に勤務され、同組合女性部の事務局として活躍されており、また、厚田アクアレーン実行委員を務めるなど、地域づくりにも積極的に参画をいただき、ご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に引き続き2期目となります。よろしくお願いいたします。

★ しばた はじめ
柴田 肇 様

柴田委員も、同じく厚田区自治連合会から推薦をいただいております。

現在、戸田記念墓地公園に勤務されており、NPO法人あつたライフサポートの会副会長、厚田資料室サポートの会副会長を務めるなど、これまで地域づくりに積極的に参画をいただき、ご尽力されております。

委員歴につきましては、前期に続き3期目となります。よろしくお願いいたします。

★ おおうち
大内 さつき 様

大内委員も同じく、厚田区自治連合会から推薦をいただいております。

北石狩農業協同組合に勤務され、スポーツ推進委員や学校支援推進員、また、心叫太鼓厚嵐会、厚田こだわり隊、厚田区コミュニティゆめ倶楽部に所属し、これら団体の主力メンバーとして地域活性化の推進に取り組まれ、ご尽力されております。

委員歴につきましては、今回が1期目となります。よろしくお願いいたします。

次に学識経験者、第2号委員をご紹介します。

★ さとう かつひこ
佐藤 勝彦 様

佐藤委員は、望来地区に居住し、NPO法人あつたライフサポートの会会長、地域教育分科会会長を務めるなど、厚田区のまちづくりに夢を描き、その実現に向けた取り組みにご尽力されております。

委員歴は、協議会設立当初からで今回が6期目、本協議会の会長をこれまで2期(4年)、副会長を3期(6年)務めていただいております。よろしくお願いいたします。

★ おおぐろ としかつ
大黒 利勝 様

大黒委員は、空知管内の中学校長を定年退職後、聚富地区に居住し、旧厚田村教育委員会で生涯学習アド

バイザーとしてご活躍いただきました。

現在は、区内中学校の非常勤講師として美術の指導を行なっている他、虹が原地区高齢者クラブ会長、更には、厚田資料室サポートの会会長、厚田アクアレーン水彩画展実行委員長を務めるなど、厚田区のまちづくり・地域振興にご尽力されております。

委員歴は、今回が5期目となります。よろしくお願いいたします。

次に一般公募の第3号委員の紹介をいたします。

★ やなだ としひこ
築田 敏彦 様

築田委員は、望来地区に居住し、望来地区自治連合会副会長、石狩市民生委員・児童委員連合協議会で副会長を務め、厚田区の会長も兼任されており、更には、厚田中学校学校支援推進員、厚田アクアレーン実行委員会副実行委員長など、多種多様にわたり区内外にてご活躍されております。

それらの立場や経験を、地域と地域協議会との架け橋として活かしたいとの思いから、応募をいただいております。

委員歴につきましては、前回に引き続き2期目となります。よろしくお願いいたします。

★ さかもと やすお
坂本 悌生 様

坂本委員は、厚田地区に居住し、かつて石狩湾漁業協同組合に勤務された事をきっかけに厚田での生活が始まり、漁協退職後の現在も、厚田にお住まいです。

漁業関係への繋がりや、出身が厚田ではない自分だからこそ気付いている厚田の魅力など、地域振興に活かせればとの思いから応募をいただいております。

委員歴につきましては、今回が1期目となります。よろしくお願いいたします。

★ なかい けんた
中井 健太 様

中井委員は、別狩地区に居住し漁業に従事され、漁業士としてまた、漁協青年部副部長として、消費者や小学生向けの講習会の講師を務め、また、イベントにも積極的に参加されるなど、ご活躍されております。

この度、これらの経験や、現在取り組んでいるニシンのブランド化の経験をまちづくりにも活かせればとの思いから応募をいただきました。

委員歴につきましては、今回が1期目となります。よろしくお願いいたします。

以上で 委員 15 名の紹介を終らせていただきます。

3. 市長あいさつ

【 田岡市長 】

皆さんこんばんは、ご多用のところ本当に集まっていたいただきありがとうございます。

また、今日は任期替えという事で、新たにそれぞれに委嘱をさせていただきました。本当にご多用の中、ありがとうございます。ちょっと喉の調子が悪いので、控えめな声を出させていただきます。

今まで、浜益で1時間15分位やってきたのですが、やはり地域にとって人口が減るとか、或いは、医療への不安だとか色んな声が上がりますが、残念ながらそこに具体的な対案というものが作れないうちに10年が経過したという事については、忸怩たる思いが委員の皆さん持っているような感じがしました。逆に言うと、私達がきちんとサポートをしていないという事もあるのかも分かりません。福祉施設等についても、或いは、温泉の経営などについても恒常的に1億数千万の赤字が毎年、無に帰していると言っても良いんでしょうかね。何か、こう事業を起こして出来るような借金とか赤字というのは、ある意味では、事業という評価の手法があるので、損得だけでは言えないところがあるのですが、これは非常に大きな、地域の赤字経営体質をそのまま持っているという事について、もう一回、気付いてもらおうという提案をあえてそこでさせてもらいました。そういう意味では時間が無くて、共通の意味を持っているこの地域についても、同じ事が言える訳ですけども、逆に言うと非常にモデル地区として全道・全国に誇れるのがこの厚田地区ではないかという風に思っております。知っている方は、もう既に厚田地区の活躍というのは、つとに伝わっているという風に思う位色んな形で、私は一つ一つの事業の説明をするまでもなく、皆さんの普段のご努力が次第に地域の活性化への筋道を作っていくというのが、手ごたえを感じられるのではないかと私だけではなくて、地域の方が悩みを持ちながらもそこにある程度の具体策を持っていけるという感じがしてなりません。

そして国の制度を活用した地域おこし協力隊の皆さんも入らせていただいて、どういう風に活動をして、どういう成果が上がるかというところについては難しい面もありますが、少なからず、地域への元気度の色んな意味の発信力は持っているのではないかという風に思っております。

ちょうど合併をして10年になりまして、当初、制度によって10年になると極端に言うと、地域の経営は一箇所でやりなさいという事で、簡単にいうと支所を潰しなさいというのが国の最初の言い方でした。ところが、遠軽の町長を中心にして、全道の合併した町が集まって支所を潰すという事は、地域を潰す事だという事で、「地方創生」という言葉とは、全く相反する方向だという事で、相当、国の方に全国の市長会もバックアップしながら要請をしたところ、さすがに国も、とりあえず失効でどうい問題があるのかという事で5年間だけ延ばしましょうという事で、起債という事で借金の補助金の制度も5年間残りました。その中に、5年後は0円ですよと最初言っていたのが、どうやら最近では、どの地区を見ても支所というのは必要だという事で、そう簡単に旧役場を潰す事は出来ないという認識が総務省の方でも持つようになってきました。うちは80kmの中に、花川に一つあってどういう風にと考えると、特に災害の問題について、国に説明をすると市域の災害を守るのは自分達だよという話しを、相当粘り強くやった結果、私は最初、総務省は相当固いと踏んでいて無理かなと思っていたのですが、制度は大幅に見直しをして期間が終わっても6割程度は見ましようという事で、交付税は続けるけど最小の人間に、或いは、最小の機能にせよという事を言ってきましたが、少なくとも議会の答弁の中においては、協議会は続けさせていただきますという事で、国が法律でどうであろうと、私は地域協議会というのは永遠であって欲しいという風に思っていて、そんな制度の無い事ですが、自分の思いを答弁にさせていただきました。それから国から来る交付税についても0円では無いという事でありました。したがって、財源の手当ては上手に使うと足りるのではないかというより、ある程度、充足できるのではないかという風に思っております。制度的には、従来とほぼ変わらないで、むしろその法律の延長、或いは、切れたとしても何らかの担保は残るのではないかという風に思っております。

更に、もう一つ皆さんが本当に努力して、日頃から本当に、ここには16回と書いてありますが、恐らくそんなものではないと思います。「道の駅」や地域活性化について、色んな話し合いがされたという成果で、地方創生の中で、一つの地域に二つの地方創生プランが提案出来たというのは、本当に大きな事だと思います。

一つは、国の制度も相まって、重点「道の駅」という事で、従来の制度とは違って地域サービス、地域公共サービス。或いは、地域が交流する場。それから勿論、産業の振興という大きなテーマも持っておりますし、期待ほど、お金は来ないと思います。地方創生1兆円と国が言っておりますけど、内訳を見ると新たに1兆円を地方創生の為に作ったのでは無くて、既存の予算の名前を変えているんですね。真水で1兆円くるとは到底思えないので、1,400億円を計上するという話しで、700億円がもう既に使われ、例えば、商品券が出たとか、このような形で既に消費されております。その残りの700億円をプランで色んなアイデアに応じて、その地域に渡すという形になると思います。今月いっぱい国の言ってきた締め切りで、先週、地域戦略の庁内会議が行なわれまして、これで国に上げようという中に、厚田の二本が入っているという事で、マル特事業と言って良いんでしょうかね。一つは、「道の駅」で、もう一つは、「漢方生薬」の特別な栽培で、生薬のベースになる物を作るという事で、これについては、もう事業として一部スタートしているという状況です。これから、場所は決まったんですが、地域でこれからどういう形になるか、どういう資金で活用していくかという事で、補助金がこれから12月に決まりますので、それによって運営の仕方が大きく変わりますので、そちらの方はそちらでまた、レラもうらいの前田さんや木村理事長を始めグループで進めております。何とか事業として、十二分整理をする事業だと思いますので、国の方との説明、或いは、プレゼンをやっている最中だという状況です。それから「道の駅」については、今日の議題のその他で説明がありますので、現状、どこまで来ているのか。ただ、私が出る時に、今日は担当の松田部長が来ておりますけれども、こここのところ会社方式で行くという事を前提に、会社の社長探しをしておりました。面接と言いますか、お会いして、お話しをさせていただいて、非常に好感触を持って帰って来たところです。そういう経営者が一人来ると、更に具体的な話になっていくと思います。したがって、ある事業は赤字か黒字かによって決められる事業だし、ある事業は、地域のサービスだからこれは市の補助金を持ってやる事業だという形で分かれてくると思います。もう既にハッキリしているのは、デマンド交通の拠点をここに入れるという事だけは、ほぼ決定事項だと思います。先ほど、浜益に行っても厚田に拠点を置きますという話しをしてきました。デマンド交通は、単に厚田・浜益の背骨で無くて、旧石狩の高岡、それから五の沢地区のバスの廃止もありましたので、それらも含めてやっぱり高齢者の皆さんの足を確保するという意味で、まず、この事業の浜益・厚田というのが最初で来年の4月から始まります。逆に言うと、中央バスが無くなってしまふ。ですから、厚田まで来て、厚田から札幌に繋ぐという形で行きたいと思います。中央バスに払っている補助金より自分自営でやった方が、更に細かくて制度の良い交通体系を取れるという事で、もうこれ以上、中央バスに出すよりは自分でやろうという事で、そしてあんなに大きなバスを走る必要性は無いので、そんなような事で進めておりますので、あとの細かい話については、後ほどご案内をさせていただく事になると思います。

最後に、私共が当地域において一番心配しているのが、災害の対応です。これは、なかなか避難訓練をやるとか何をやるにしても、みんな日常的に仕事を持っているものですから、その学芸会的訓練というものに

は、なかなか参加しづらい。でも、無駄でも、一回でも経験をすると全然違ってくるという事を考えると、今回の大雨被災のような状況は一回経験したという事を、それから訓練しているところとでは全然違います。ある意味では、逃げてくださいとテレビはアナウンスをしない市が悪いと言うんですね。確かに、今回のケースではそういう問題もありました。市がちゃんと伝えていないという。ただ、伝えても逃げてない。で、最後、ヘリコプターでみんな吊る。あれは、避難指示をちゃんと履行しない。履行しないのは何故かといいますと、訓練していなかったからです。極端な話、避難所が何処にあるかも分からない。そういう意味では、この厚田地区もこれから非常に不安定な地球環境の中で集中的なゲリラ豪雨が発生する可能性があるのです、是非、それらについてこれは市役所が助けに行く、消防が助けに行くと言時間タイムラグがありますので、その間やっぱり地域で、或いは、個人で自分の命を守ってもらうという事は必須ですから、これらの組織について、更に吟味をして細やかな必要があるのではないかなと思います。それらについて、必要な経費について十分、全部とはいきません。何年間か計画の中で、進めていかなければならないと思います。浜益の送毛では川の中に水道管が入っていた事もあったように、設計図面が無いので、古い人が確かここに水道管が入っていたぞという事で、その管を見つけない限り水道の復旧が出来ないんですね。誰も分からないで、普通は道路の横だという事で、道路の横を探したんですけれども、いくら探しても無くて、最終的には川の中に管が入っていたというような事を含めるとやっぱり地域力というのは、凄くそういう事が伝わっていますので、防災についてだけは、待った無しと言いますか、もう一回。一回やったんですけど、不十分だと思います。それから、異様にサイレンに期待感を持ったり、その近代的な仕組みをやらなくていい理由にしてしまう。サイレンが鳴らないから聞こえないという話ですけど、江戸時代や戦後でもあるまいし、みんな携帯を持っているので、携帯で登録さえすれば、気象庁の情報が全て鳴るんですよ。その登録さえしてくれれば、聞こえないとか知らないという事は無い仕組みになっているんですけど、その登録がされないという事などを含めると、是非、もう一回、地域で防災についてやらないと駄目だなという感じがすごくしております。特に、沢づたいの災害については、恐ろしいなという感じがしております。それから、市は大体、時間当たり 20 ミリを超えると警戒態勢に入って、職員は寝ずの待機に入ります。警報が鳴ると完全に職員は残るという形になっておりますので、是非、その当たりも市と支所が連携を取りながら、現場に駆けつけれるような体制だけは、これからも堅持していきたいと思っておりますので、地域にあつて、是非、自分達の命を守るといをお願いをしたいと思っております。

以上、ちょっと長くなりましたけれども、最初の挨拶に代えさせていただきます。また、どうぞよろしくお願い致します。

4. 職員紹介 ※厚田支所 西田支所長より紹介

5. 協議事項

会長・副会長選任

【厚）地域振興課 高田課長】

それでは、協議事項の（1）会長及び副会長選任に入ります。

会長及び副会長の選任については、協議書第7条第1項の規定で、会長及び副会長を置く、また同条第2項においては、委員の互選により選任する事となっております。

これにより選任に入りますが、選任には過半数の委員の同意が必要となりますので、どなたかご意見等ある方はいらっしゃいませんか。

【柴田(肇)委員】

第5期も佐藤会長、渡邊副会長で進めて参りまして、非常にスムーズに進んでくる事が出来ましたし、また、今後の課題についても精通しておりますので、出来る事なら前会長・副会長に今期もまた、継続してほしいなという風に個人的に思っております、皆様のご賛同を得られればと思いますがいかがでしょうか。

【厚）地域振興課 高田課長】

ただ今、柴田委員からご意見がありましたけれども、その他に何かございませんか。

意見が無いようですが、今、柴田委員が言われましたように前期の会長・副会長に継続していただくという事でよろしいでしょうか。

【お願いしますという声多数】

【厚）地域振興課 高田課長】

それでは賛成の声がありましたので、第6期会長には佐藤委員、副会長には渡邊委員と決定させていただきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

【一同拍手】

【厚）地域振興課 高田課長】

それでは早速で恐縮ですが、会長から一言、ご挨拶をいただきたいと思ひます。

【佐藤会長】

お晩でございます。ちょうど地域協議会が始まって10年になるんです。節目としてちょうど良いなと思ひまして、事務局にこの次は、副会長の渡邊さんを会長にして、私はまた、二等兵として頑張りたいという事で、強く申込みをしていたのですが、事務局だけでは決定出来ませんと言われ、あっさりと断られてしまいました。これは無下にお断りをする訳ではなくて、この地域協議会で皆さん達と大変有意義な話しをし、出来てきたというのには二つあるんです。

一つは、一番大きいのですが市長がこの厚田に対して、大変ご理解いただいているという事ですが、これはきちっと行政のバックアップがあるという事で、私達がただ議論をして、それが空虚な議論に終わらないという事です。きちんとした土台があるという事を私達はそれを信頼しながら、10年間ずっと議論を続けて来れたというのには非常に大きいと思ひますよね。

もう一つは、石狩市の“協働の精神”という事で、第1回目の地域協議会の時に、この“協働”を地域と役所がどうしていくかという事で、ここから話しが始まりました。幸い、この厚田支所地域振興課の皆さんは、地域の事を思っただけで汗をかいてくれました。私が委員をしてとても心配だった事は、それは2、3年してすぐに分かりました。役所の人達は家庭が崩壊するのではないかという位、土、日、夜遅くまで仕事をしている訳で、そういう過剰な労働をするという事では無く、楽しんで仕事をしているんですね。仕事というのは、嫌々するとこれはストレスや病気になるんですが、楽しんでやって、家庭も大丈夫だと言っ、大変安心してこの“協働”というのを、この地域と役所が一緒になってやって来ました。

この2点が、今までの地域活性化のある程度の成果を挙げた要因では無いかと私は思っております。

今度は、私の方の意見なんですが、地域活性化の成果は何なのかとよく問われまして、地域活性化と皆、全国で言うんですけれども、それじゃ地域活性化って、何がされた時に本当に地域が活性化しているのかというのは難しいんです。私はこう思うのですが、地域活性化の成果とは何かというと結果的に“地域が存続する事”だと思います。地域が無くなってしまったら何もならない。すなわち、今住んでいる人達がここで快適な生活を送れるように、まずはどうすれば良いかという事を地域の皆で考えるというのが、地域活性化の基本だと思っています。出来れば全国少子高齢化だから、どこでも人が増えてくれれば良いと思っておりますが、人を増やすのは大変だという事をこの10年、委員の人達も皆議論してきて、空き家問題ですとか、ちよい暮らしを厚田でもらって、ここが素晴らしいと思ってもらって、長く住んでいただけるような対策や何かを講じましょうと言っても、なかなか具体的にはいきません。この10年やってみて、地域の活性化の為に皆で知恵を出して、汗をかいて一生懸命やるけれども、これは結構、時間がかかるという事を長くされている人達は解るし、或いは、この地域協議会から出来てきた団体の人達、地域のボランティアも含めて、これはなかなか、地域活性化には時間が掛かるよなという事を体験で実感しているんですよ。ですから、これから私達は長い目で地域を活性化していくという事を、次の世代に伝えていくような工夫をこれからやっていかなければならないだろうと思ひます。昔、老兵は去ると言いましたけれども、70歳を過ぎたら普通は老兵で去るんですけれども、今は、老兵は先に立って歩けというキャッチフレーズで、老兵は去ってはいけないんですね。そういう事で今回、委員の皆さんには、中井委員とか吉田委員みたいに若い人に入っいただきました。そういう人達に地域を活性化してもらっ為に、私達の知恵や汗などを一緒にかいてもらいながら、次の時代を担っただけのような委員として、私達と一緒にやっていただきたいと思っております。あと1期2年、本当に微力であり、今までも、本当に皆さんの意見を私が調整をしまとめてやっているだけですから、これからも積極的に、色々なアイデアや意見、それから私が一番この楽しいなと思ひるのは、夢を実現させるという意欲が雰囲気として満ちているので、そういうのを市長は先ほどの挨拶の中で、地域協議会はまだまだ続きますとおっしゃっていただきましたので、厚田は是非、この夢を実現するこのスタイルを伝統として残っしていただきたいという事を希望して、私の挨拶に代えたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

【一同拍手】

【厚）地域振興課 高田課長】

ありがとうございました。それではここで一旦、休憩としまして、田岡市長との懇談の時間を取りたいと思います。

<休憩（市長との懇談）>

(2)石狩市過疎地域自立促進市町村計画について

【佐藤会長】

それでは協議事項に戻りまして、「石狩市過疎地域自立促進市町村計画について」これは本庁企画課の方から来ていただいておりますので、上窪主幹の方よりよろしくお願い致します。

【企画課 上窪主幹】

石狩市過疎地域自立促進市町村計画について説明させていただきます。本日は、資料を二つ用意してございます。一つは、A4縦で（素案）と書いてある少し厚めの冊子でございます。二つ目は、クリップ留めしておりますA4横2枚の資料でございます。それでは座らせてもらい説明をさせていただきます。

まず、この市町村計画ですが、こちらは「過疎地域自立促進特別措置法」という法律によって、市町村が定める事が出来るとされているものでございます。こちらは、平成27年度までの現計画がありまして、こちらの法律が平成32年まで5年間延長になったものに対応して、この市町村計画も平成28年度から平成32年度まで5年間延長するものでございます。こちらを定めるメリットとしては、主に二つございまして、国の補助金のかさ上げが得られるというのと、二つ目は有利な起債が充てる事が出来るという、この二つが大きなメリットとなっております。まずは、改定計画と申しますか、変更する素案についてご説明させていただきます。

（素案）の冊子の方を用いて説明をさせていただきます。1枚目をめくっていただきますと、目次が左右にございまして、1番として「基本的な事項」、これは石狩・厚田・浜益の概要について記載してございます。2番「産業の振興」。3番「交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進」。4番「生活環境の整備」。5番「高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進」。右に移りまして、6番「医療の確保」。7番「教育の振興」。8番「地域文化の振興等」。9番「集落の整備」。そして最後に10番「その他地域の自立促進に関し必要な事項」という事で、こちら10項目について定めているものでございます。

もう一枚、ページをめくっていただきまして、1ページ目となります。こちらは、石狩市の概況という事で、厚田・浜益を含めまして概況について述べております。2ページ目、3ページについても概況でございまして、3ページから4ページにかけて人口について記載しております。国勢調査や住民基本台帳に基づいた人口の推移等を記載しております。8ページからは産業の推移と動向という事で、国勢調査のデータに基づいて記載してございます。10ページは行財政の状況という事で、石狩市の財政状況について記載してございます。赤字と黒字があると思いますが、赤字の部分が改定計画について変更する内容を赤書きにしております。現計画で書いておりますが、変更して削除する部分を見え消し線で消しております。11ページの右側で、経営健全化判断比率の状況という事で、所謂、四指標というもので、財政状況を上から下に行くに連れてだんだん新しくなりまして、財政状況については復調傾向にあるという事になっております。次、12ページでございまして、こちら財政の状況という事で、歳入・歳出それぞれ石狩市の財政状況について記載しております。右の13ページ施設整備水準等の現況という事で、こちら道路や上水道・下水道の整備率について記載しております。14ページからは、地域の自立促進の基本方針という事で記載しております。計画期間は平成33年3月31日までの5ヵ年となっております。右の15ページからそれぞれ産業の振興等という事で、個別の具体策について記載してございます。こちら産業の振興の中で、先ほどもお話しがありました「道の駅」について、こちらに記載をしてございます。18ページ、19ページと農林水産業のデータを載せておりまして、21ページには観光客数の推移、それから22ページからは必要な対策という事で、25ページには具体的な計画という事で、こちらに掲載されているものが補助金のかさ上げだったり、有利な起債を充てられるような事業になってございます。こちら25ページ下の方に、重点「道の駅」整備事業について、構想案にありましたこれから考えられる要素について、こちら盛り込んでおります。次に27ページの交通通信体系の整備という事で、来年度以降に想定をされます「デマンドバス」についても記載してございます。次に33ページから生活環境の整備という事で、こちらは経済産業省の方で今後、過疎地GSという事でサービスステーションで給油所なんですけれども、こちらは防災の観点から必要な施設という事で経済産業省から改修について補助金が出る予定となっておりますので、こちら今後、厚田・浜益において見込まれる可能性がありますので記載してございまして、35ページにサービスステーションについて書いてございまして、38ページの計画の中で、サービスステーションの地下タンク入れ替え等々の記載をしてございます。39ページは、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進について記載を

しております。43 ページには医療の確保。45 ページには教育の振興。49 ページには地域文化の振興等。51 ページは集落の整備。最後に 53 ページになりますが、その他地域の自立促進に関し必要な事項という事で、こちら 26 年度から導入をしております「地域おこし協力隊」についても記載しております。

こちらは9月以前にも、こちらの協議会において説明をさせていただいているのですが、そちらの中で出た意見としまして、人口の減少に対して外から人が流入して住んでもらう対策が必要なのではないかというアイデアをいただきました。こちら住宅の確保というような事で、空き家の活用という事で今、現計画では生活環境の整備において公営住宅の整備というようなものが盛り込まれておりますが、こちらは支所も含め、これから協議会の議論も踏まえまして、空き家の記載についても更に盛り込んでいこうと予定しております。こちら市町村改定計画なのですが、次回以降のこちらの協議会においても、また、改めまして協議をさせていただくのと併せまして、北海道、それからパブリックコメントを12月から一月間予定しております。そちらの意見と協議会の意見も踏まえまして、来年1月に計画（案）を決定致しまして、3月の石狩市議会の第1回定例会において議決の予定となっております。次回以降も、引き続き協議会において、ご説明させていただきたいと思っております。

次に、A4横2枚のクリップ留めの資料の方で説明させていただきます。こちらは現計画、平成27年度迄の計画において、来年度からデマンドバスの運行をする事となっておりますが、こちらのデマンドバスの整備・購入について、今年度、購入する必要があります事から、現計画の左側部分では、浜益滝川間乗合自動車更新事業と書いておりました、こちらだけは厚田・浜益間のデマンドバスが整備出来ないものですから、こちら右の変更後という事で、地域を取りまして、厚田・浜益間地域で展開出来るようにそういった改定をするものでございます。

私からの説明は以上となりますので、どうぞご協議よろしくお願い致します。

【佐藤会長】

はいありがとうございました。まずは、最初に説明をしていただきました赤字で（素案）と書かれています「石狩市過疎地域自立促進市町村計画」で平成28年度から平成32年度までという事で、今、説明がございましたように新しくなった部分が赤字で書かれていますので、まずは、この素案に対してご質問を受けるという事でありませう。

それから2点目は、A4横でクリップ留めしている資料で、この計画の変更に対してという事で、まず、この2点の質問は何かございませうか。

【小笠原委員】

ちょっとお聞きしたいのですが、こういう素案が出て来るにあたって、その前の段階の振り返りみたいな説明と一緒に併せてもらって、それから出てくるような形にはならないものでしょうか。

【企画課 上窪主幹】

振り返りと言いますと、達成度とかそういった事でしょうか。

【小笠原委員】

そうです。

【企画課 上窪主幹】

こちらの計画については、そういった先ほど二つのメリットございましたが、今後、考えられるものは全て盛り込むと言いますか、網羅的な計画となっておりますので、こちら変更にあたっては今あるものから考えられるものを追加するという形で改定を考えておりましたので、達成度等について必要ならば、次回以降、説明をさせていただければと思っております。

【小笠原委員】

分かりました。もう一つですけど、35ページの方にサービスステーションという事で、給油所の関係があるんですけども、これについてちょっと説明をしてもらえればなと思います。

【佐藤会長】

35ページ、その他のところにあるサービスステーションという事で、給油所ですがこの点についてお願いします。

【企画課 上窪主幹】

経済産業省でも過疎地SSという事で、サービスステーションを全国的に給油所が無くなるといった事象が起きていまして、給油所は日頃の車両や暖房の燃料供給だけではなく、市の防災計画でも給油所自体が非常時の防災拠点になるという事に位置付けられておりますので、給油所自体は引き続き過疎地でも運営されていく必要があるだろうという事で、こういった改修等の費用から事業者がなかなか改修出来ずに撤退をするという事象もある事ですから、国が補助金をかさ上げして財源的な措置をして、過疎地のSSという事で、給油所を維持するような方策を打ち出しております、今後、厚田・浜益においてもそういった事が考えられるものですから、今回、盛り込むものとした事です。

【小笠原委員】

具体的に、どこか想定している場所はあるんですか。

【企画課 上窪主幹】

いえ、それは今後考えられるという事で、まだ具体的な想定までは至っておりません。

【佐藤会長】

よろしいでしょうか。その他に何かありませんか。

【坂本委員】

正直、いきなりこれだけのものを outsourced してもらうので、事前に、こういった厚いものは配っていただいて、目を通した上で、意見ないし質問というのでしたら解るのですが、ただ今の説明を聞いただけでは、どこに何があるのか分かりませんので、そういう配慮を一つ、お願いしたいと思います。

【佐藤会長】

そうですね。実は、これは地域協議会としては、もう3回目の説明となっております、1回目の時にはすでにこの資料は配られておりました。

【坂本委員】

ですから、私のように新しい委員は初めて聞くので。

【佐藤会長】

そうですね。

【平賀委員】

防災無線の件なんですけど、厚田区で流れている防災無線の発信拠点は、支所から流れているんですか。それとも、旧石狩市から流れているんですか。これを聞くのは、デジタル化という事で29ページに防災無線のデジタル化という事になっているんですけれども、発足地域では消防の分団が既にデジタル化になっているんですけれども、実際に、発足から石狩の本部という事で、市役所の近くの本部があると思いますが、指令本部には未だに繋がらない状況なんですよ。ですから、もし、通常流れている防災無線が石狩市から発信しているのであれば、厚田には届かないのかなど、今この報告書を見て思っているんですが、ただ、発信地が厚田支所からであれば、厚田の消防の方には無線は流れているという事なので問題は無いと思うのですが、ただ、デジタルになるとそういう届かない所があるという事を覚えておいてもらえればと思いますし、発足の方は本当に奥の方まで家があるので、実際に結構、高低差のある所に家があったりしますので、そこら辺の考慮も含めて考えていただければと思います。

【企画課 上窪主幹】

防災無線については、総務部の方で所管しているんですけれども、そちらの現在のデジタル化の状況と、あと今後どういった計画があるのか、どういった防災無線の情報データの状況がある事なのかという事も確認をしまして、より良いと言いますか、そちらの過疎計画の中でもそういったところが反映出来るように検討して参りたいと思います。

【平賀委員】

お願いします。

【佐藤会長】

今、防災無線は支所から流しているのでしょうか。

【 厚）地域振興課 高田課長 】

支所からです。

【 佐藤会長 】

その他、何かありませんか。

【 小山委員 】

先ほどのデマンド交通の件で質問になるかもしれませんが、民間の業者さんに委託して運営をするという事になるのでしょうか。

【 企画課 上窪主幹 】

所有するのは市が所有するのですが、運転手さんを含めたものは委託という形で進める想定しております。

【 小山委員 】

それでは、ライフサポートさんとは別という事ですね。

【 佐藤会長 】

そうですね。

【 小山委員 】

その時なんですけれども、一応、皆さんにアンケートを取って、何時の何に何便とかというようにアンケートみたいな感じで、何時が都合が良いとかというそういう事は、どうなんでしょうか。皆さんの意見を聞いて、運行をするような感じになりそうですか。

【 企画課 上窪主幹 】

こちらデマンドバスは、今、来年度から予定しているのは、厚田から浜益で民間のバス事業者が撤退する事もあって穴埋めをするデマンドバスでして、そちらの運行形態については、環境市民部の方で地域にアンケートを取りまして、そういったより良い、使いやすいような形でご意見を聞いて反映しているという風に聞いております。

【 小山委員 】

分かりました。

【 西田支所長 】

今の話は厚田と浜益の間で、主に浜益の方の交通網の施策なんです。小山委員のおっしゃっている厚田区の話は、まだまだこれからです。

【 小山委員 】

分かりました。そしたら将来的には、札幌から厚田を今、中央バスが走っておりますけれども、それもやっぱりそういう感じになる可能性というか、予定というのはあるのでしょうか。

【 西田支所長 】

予定は聞いていません。ただ、全くゼロでも無いと思いますし、そういう意味で今、ライフサポートの会の方でも、危機感を持って取り上げていて話をさせていただいているという風に理解しております。

【 小山委員 】

分かりました。

【 佐藤会長 】

あとはございませんか。無いようですので、このクリップで留めている方へ移りまして、交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進というテーマで、その計画が次のページに書かれております。これに関しては何かご質問ありませんか。

このパブコメはいつからでしたっけ。

【企画課 上窪主幹】

12月から一月間です。

【佐藤会長】

当然、パブリックコメントですから、今日、お渡ししましたこの促進計画に目を通していただいて、そのパブリックコメントの中に委員の方に色々ご意見を出していただくのも良いんですね。

【企画課 上窪主幹】

ええ、あと11月以降のこちらの協議会でも、また同じく協議をさせていただきます。

【佐藤会長】

分かりました。目を通していただいて、もう一回、これに関する意見招集というのがございますので、その時にまた、これを十分に読んでいただいて、ご理解の上、ご質問だとかご意見をいただくという事にしたいと思います。

ありがとうございました。

6. 報告事項

- ・「道の駅」の整備に関するパブリックコメントの実施について説明
(資料2-1、2-2により厚田支所 地域振興課 相原主幹より説明)

7. 次回会議等の日程について

平成27年11月26日(木) 18:30 ~ 望来コミセン みなくる ホール

8. 閉会

平成27年11月26日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会長 佐藤 勝彦